**論文タイトル（MSゴシック14 pt）センター揃え**

英文論文タイトルTimes New Roman 12 pt (Center), Headline Style

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ご所属先 | 苗字 名前 | First LASTNAME | Member |
| ご所属先 | MS明朝　12 pt | Times New Roman | Non-Member |
| ご所属先 | 苗字　名前 | Fontsize 12 pt | Student Member |
| ご所属先 | 苗字　名前 | First LASTNAME |  |
| ご所属先 | 苗字　名前 | First LASTNAME |  |

Abstract (Times New Roman 10 pt) should be about 150 words.

**Keywords**: 5-10key words, Times New Roman 10 pt, Headline Style

**1．見出しMSゴシック太字 12 pt**

文章はMS明朝10 pt．原稿の本文については，2段組みとし，左右の段の間に8 mm程度の間隔を空けること．できる限り常用漢字を使用し，外字は出来る限り避けること．句読点は「，．」を使用する．本文内の引用は上付きにせず，平文とする［1］．

量フォントのサイズは10 ptとし，英数字用フォントには日本語フォント（MS明朝，MSゴシック等）を用いないこと．また，数式に現れる量記号が文章中に現れる場合には，数式に用いたものと同じフォントを用い\*1，字体についてもそろえること\*2．数式は，「数式エディタ」の使用を推奨する．

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

2．見出しの数字は半角

2.1 中見出しはMSゴシック太字 11 pt

余白は下記のように設定してください．

上余白：29mm　下余白：22 mm

左余白：22 mm　右余白：22 mm

章・節・項の見出しには，ゴシック体の太文字を用い，章の見出しには12 pt，節以下の見出しには11 ptの文字サイズを用いること．また，章・節・項の番号については，半角文字を使用すること．

2.2 図表，写真等の書き方

論文等については，図表中の文書， 説明文(figure caption)を英文とすること．

Fig. 1 Times New Roman 9 pt

Table 1 Times New Roman 9 pt

なお論文等以外の原稿（例えば解説記事等）についてはこの限りではないが，説明文番は，下記の要領に従うこと．ただし，学術論文と同様，英文でも良い．

連絡先:名前，〒000-0000住所，所属先，

E-mail: …………@.....co.jp（フッタ部分にはみ出さないよう注意してください）

図表はページの上下に揃えて割付する．なお論文等以外の原稿はこの限りではない．

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

**3．見出しMSゴシック太字 12 pt**

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

Table 1 A list of the measurement conditions

|  |  |
| --- | --- |
| Table |  |
|  |  |
|  |  |

Ex. of a figure. Captions should be in English.

学会誌の印刷は白黒となります．

Fig. 1 Appearance of measurement sample

(NCF600 weld metal)

**参考文献**

[0] 参考文献の記載方法は保全学会HP「注釈付き見本」（https://www.jsm.or.jp/paper/postrules.html）を参考にし，原則に準じること．ウェブサイトの場合は確認の日付も記入する．

[1] W. Cheng and H. Huang: “超音波と渦電流探傷によるインコネル溶接金属の欠陥検出”，第12回MAGDAコンフェランス予稿集，大分，2003年3月27-28日，pp. 187-190（2003）．

[2] 糟谷高志, 内一哲哉: “ECTに基づくシュラウドの検査シミュレーション”，保全学，Vol. 3，No. 1，pp. 51-56（2004）．

[3] D.N. Collins, W. Alcheikh: “Ultrasonic non-destructive evaluation of the matrix structure and the graphite shape in cast iron”, Journal of Materials Processing Technology, Vol. 55, No. 1, pp. 85-90 (1995).

[4] 坪井始，内藤督: “数値電磁解析法の基礎”，養賢堂，pp. 52-56（1994）．

　（2020年#月##日受理，2020年#月##日採択）